



タイトル「**2024年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT1312S		
科目名	企業リスクガバナンス		
担当教員	上野山 晃弘,木村 敦,工藤 聡一,先崎 彰容,田 昌禾,中林 啓修,中村 良,西田 亮介,永沼 淳子,福田 充 ,美濃輪 正行,山下 博之,山添 謙		
対象学年	1年,2年,3年,4年	開講学期	後期
曜日・時限	金 1		
講義室	1310	単位区分	必
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門基幹科目		
科目小分類	専門基礎		
科目の位置付け（開発能力）	■DPコード - 学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関係 DP1-E [学識・専門技能] 専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 DP4-I [理解力・分析力] 文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 DP-6K [表現力・対話力] 文章及び口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。 ■CRコード - 学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック (CR) との関連 B1 自己啓発 (10%) E1 学識と専門技能 (40%) I1/I3 理解・分析と読解、情報分析 (20%) K1/K2 ライティングコミュニケーション、オーラルコミュニケーション (20%) M1 統合的・応用的学修 (10%)		
教員の実務経験	各回の授業を担当する教員それぞれの教授経験等をふまえ、「企業キャリア」の業務の特性に対する理解を深めることができるよう、実務的な視点を交えながら支援したいと考えています。（第2回～第14回）		
成績ターゲット区分	2 進行期 ～ 3 発展期		
科目概要・キーワード	危機管理学部は、現代社会が求める、危機管理に必要な知識、技能、マインドをもった人材を社会の各層に送り出す使命をもっています。例えば大規模自然災害を念頭に置くと、救急対応や治安維持、生活再建や復旧復興などの局面で、国及び地方の行政（公務員）が連携しつつ、その対応に当たることになります。その一方で、鉄道等の運輸機関、電力等のライフライン、影響を受け得るメーカー等の企業は、民間レベルでも危機管理を行っていくこととなります。むろん行政と企業とが協調することは重要ですが、この両者は、それぞれ目的と根拠法が異なることも確かです。 そこで危機管理学部では、2年進級時、「行政キャリア」または「企業キャリア」を選択し、それぞれの業務の特性をしっかりと理解したうえで、皆さんが社会で業務に当たれるように配慮しています。本講は、皆さんが必要かつ十分な情報をえて自身の将来展望を明確に持てるよう、「企業キャリア」において行われる危機対応＝リスクガバナンスを体系的に理解し、また「企業キャリア」の業務において必要とされる学識等と専門科目の対応関係を把握することを目的とします。 ■キーワード：企業、キャリア、リスクガバナンス ※授業は講義形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。		

授業の趣旨	■副題 2年次以降の体系的な学修プラン構築のために、自らキャリアプランおよび領域の選択ができるための知識・技能を培い、態度を養成します。 ■授業の目的 企業活動の特徴を踏まえ、企業における危機対応（リスクガバナンス）を体系的に理解するための基礎知識を学びます。また、企業における危機管理を具体的に想定し、そこで必要とされる学識や技能等と領域ごとの学修内容との対応関係を把握するための基礎知識を学びます。 ■授業のポイント 本科目では、第2回～第14回授業において、毎回異なる教員がそれぞれの専門分野における教授経験等をふまえて講義を行います。	
総合到達目標	■[GIO] 2年次に向けてキャリア（企業キャリア・行政キャリア）及び学修領域（主専攻・副専攻）を適切に選択できるようになるために、「企業リスクガバナンス」に関する知識を理解し、四領域（災害マネジメント・パブリックセキュリティ・グローバルセキュリティ・情報セキュリティ）における具体的な諸課題に対する関心を深め、課題解決のために自らの考えを形成することができる。 ・[SBO1] 企業キャリアにおける危機対応に関する知識を理解した上で、キャリア選択時に「企業キャリア」を選択すべきかどうかを判断し、その理由を説明することができる（第1回～第15回）。 ・[SBO2] 四領域における企業リスクガバナンスの知識を理解した上で、領域選択時に「主専攻」と「副専攻」を適切に選択し、その理由と今後の学修計画を説明することができる（第1回～第15回）。 ・[SBO3] 各回の授業で提示された課題（リアクションペーパー／振り返りシート）に関する考察を深め、適切な回答を記述することができる（第1回～第15回）。	
成績評価方法	■授業参加度（100%）：適用ルーブリック B1・E1・I1/3・K1/2・M1 （評価の観点）各授業回で実施する「リアクションペーパー」または「振り返りシート」について、キャリアと領域における学修内容を考察し、自らの考えを具体的に述べているかを評価します。	
履修条件	なし。	
履修上の注意点	必修指定されている意味を考え、2年次以降の学修がより豊かになるよう主体的に授業に臨んでほしい。 ※成績評価は「授業参加度（100%）」ですので、各回の授業に出席の上、各回の担当教員から示された課題を必ず提出してください（必修科目ですので必ず単位修得できるように取り組んでください）。	
授業内容	回	内容
	1	①授業テーマ 「企業リスクガバナンス」のガイダンス ②授業概要 危機管理学部のカリキュラムにおける「キャリア・プラン」に関する説明を聞き、企業キャリアと行政キャリアの違いについて説明できる。社会における「企業」の位置づけと、企業と社会のかかわりについて説明できる（B1・E1・I1/3・K1/2・M1）。 ③予習（120分） 「企業リスクガバナンス」のシラバスを読み、授業内容に示される単語の意味を調べる。 ④復習（120分） 「企業リスクガバナンス」の担当教員の担当科目のシラバスを読み、企業キャリアに関連する学習内容を例示する。 【担当教員：科目コーディネータ（上野山晃弘）】
	2	①授業テーマ 働き方の哲学：働くことの意味について考える ②授業概要 キャリアおよび領域選択に備えて、「働くことの意味」について考える。今回は、まず危機管理学部のカリキュラムや卒業生のメッセージを紹介したうえで、参考図書『働き方の哲学』の第4章「働く意味について」を中心に取り上げ、目標と目的、動機、自己実現等の観点から「働くことの意味」について自己分析・考察を深める。そのことにより、将来危機管理パーソンとして企業で活躍するための知識・技能・態度を修得することが今回の目的である（B1・E1・I1/3・K1/2・M1）。 参考図書：村山昇『働き方の哲学：360度の視点で仕事を考える』（ディスカヴァー・トゥエンティワン、2018年） ③予習（120分） 「卒業生インタビュー」を読み、働くことの意味について考察する。

	資料： https://www.nihon-u.ac.jp/risk_management/career/interview/ ④復習（120分） 授業内容をふりかえり、リアクションペーパーの課題に関する考察をさらに深める。 【担当教員：上野山 晃弘】
3	①授業テーマ 企業リスクと認知バイアス ②授業概要 企業のリスクマネジメントに関わる様々な意思決定には人間の心理が影響を及ぼすことについて、企業不祥事等の事例を挙げながら説明できる。リスク認知の特性について研究例や自身の日常生活における体験例を挙げながら説明することができる（B1・E1・I1/3・K1/2・M1）。 Keywords: アンコンシャス・バイアス、マイクロアグレッション、潜在的態度測定法 ③予習（120分） 事前に配信された授業用アンケートに回答する。また、当該授業回の配布資料を事前にダウンロードし、資料に記載されている参考書・URL等を参照して資料空欄に当てはまる用語等を記入する。 ④復習（120分） 授業ノートを確認し、当該授業の学習内容について自分の言葉で概略を述べるとともに、日常生活例や発展研究例など自分なりの説明をノートにまとめる。 【担当教員：木村 敦】
4	①授業テーマ 企業におけるリスクコミュニケーション ②授業概要 企業のリスクガバナンスにおいて、広報と広聴の機能を備えたリスクコミュニケーションは極めて重要な活動となる。企業のリスクコミュニケーションが対象にする領域は企業活動に関わるあらゆる領域を含むものとなり、さらにリスクコミュニケーションとクライシスコミュニケーションの両面をカバーしなければならない。企業のリスクコミュニケーションについて具体的かつ理論的に考察する（B1・E1・I1/3・K1/2・M1）。 ③予習（120分） 参考書、福田充『リスクコミュニケーション』（平凡社新書）の1章・2章・3章を読む。 ④復習（120分） 授業で紹介した企業のリスクコミュニケーションに関する複数の案件について、情報収集してその対応策の問題点と改善策を考える。 【担当教員：福田 充】
5	①授業テーマ 国民保護等危機管理における企業の役割 ②授業概要 例えば、航空機を用いたテロの防止など、危機管理を考える上で、民間企業は世界的に大きな役割を果たしている。日本の場合、防災・危機管理においては指定公共機関等として指定されている企業には、特に多くの役割が期待されている。講義では、制度上の位置付けや、近年の日本の危機管理対策上、企業に期待されている役割について、事例等を用いて解説する（B1・E1・I1/3・K1/2・M1）。 ③予習（120分） 指定公共機関の役割について調べてくる。 ④復習（120分） 資料を復習しながら、自分が興味のある業種や企業がどのような役割や取り組みを期待されているのかについて調べてみる。 【担当教員：中林 啓修】
6	①授業テーマ 企業におけるリスクマネジメント ②授業概要 企業のリスクマネジメントの方法（予防方法・事後処理方法）について、企業不祥事事例を用いて学修し、自分の言葉で企業リスクマネジメントの全体像を説明できるようになると共に、領域選択・キャリア選択との関係を説明できるようになる（B1・E1・I1/3・K1/2・M1）。 ③予習（120分） 事前に提供する資料を読み込んで自分の意見をまとめておくこと。 ④復習（120分） 講義やグループワークでの議論から得た知識や気づきを用いて自分の意見を修正・ブラッシュアップしておくこと。 【担当教員：中村 良】

7	①授業テーマ 日常生活のルール「民法」は企業活動で役に立つのか ②授業概要 私人間の経済活動と家族関係を規定する民法は、企業活動と直接関係がないようにも思える。そこで、企業活動を支える様々な「契約」について概観することで、民法と特別法の関係について理解し、4領域と企業キャリア及び民法の関係について説明できるようになる（B1・E1・I1/3・K1/2・M1）。 ③予習（120分） 事前に配信する資料に目を通し、企業活動と契約の関係について理解する。 ④復習（120分） 授業資料を見直すとともに、授業内で紹介した判例について、裁判所のホームページから判決文を確認し、「事案の概要」・「争点」・「それに対する裁判所の判断」に分け、ノートを作成する。 【担当教員: 永沼 淳子】
8	①授業テーマ JAL, ANAだけじゃない, 航空キャリアの広がりとは危機管理 ②授業概要 滑走路からダイナミックに舞い上がる飛行機をみて、ワクワクしない人はいるでしょうか。飛行機の窓からみえる景色の雄大さ、旅先での特別な時間を想起して、夢のある「航空」を、職業として考える人も少なくないと思います。本講義では、航空会社総合職や客室乗務員に限らず、この社会で壮大なエコシステムを構成している広い意味での航空業界、そしてそこでのキャリアの可能性に着目します。担当教員の開講科目である、ロジスティクス論、企業取引と法（ロジスティクス法）、事故責任法制との関連を含め、航空と危機管理の学びのつながりについても、俯瞰することになります。なお、職業としての航空に興味のない人にも、ビジネスモデルの相互連関やキャッシュポイントの考え方など、社会人として知っておくべき内容を伝えられるよう工夫します（B1・E1・I1/3・K1/2・M1）。 ③予習（120分） 中期、長期での社会経済情勢の変化を予想しながら、民間企業で働くことをイメージし、自分という存在は社会にどう位置付けられそうか、考えてみよう。特定の業界・企業を想定し、自分のストロングポイントとからめて「志望動機」を200字で書いてみよう。 ④復習（120分） 授業で取り扱った内容をまとめ、自分の志望する業界とその隣接業界の「業界地図」を書いてみよう。意中の企業における志望部門で求められるキャリア要素を抽出し、現在の自分との隔たりをどう埋めるのか、ロードマップを書いてみよう。 【担当教員: 工藤 聡一】
9	①授業テーマ 災害マネジメントと企業キャリア ②授業概要 ・災害時に企業が受ける被害とその予防策について、災害クロスロードの手法をもとにワーク形式で検討します。 ・検討を通じて、災害マネジメント領域の学びと企業キャリアとの接点に関する気づきを得るとともに、気づいた点を説明できるようになる（B1・E1・I1/3・K1/2・M1）。 ③予習（120分） 事前学習用に資料（新聞記事、雑誌等のコピー）を配信する。この資料をあらかじめ読み、過去に発生した災害事例における企業の被害や対応について確認する。 ④復習（120分） ・ポータルシステムで災害マネジメント領域の科目のシラバスを確認する。 ・特に授業概要から各科目における企業キャリアとの関わるキーワードを見つけ、科目ごとにキーワードを整理したノートを作成する。 【担当教員: 山下 博之】
10	①授業テーマ 現代日本のメディア接触行動とメディアビジネス ②授業概要 メディアとビジネスの変化を知り、メディア企業と社会のリスク、その変化、リスクへの対応策等について理解する。演習を行うので、作業できるPC等を持参すること（B1・E1・I1/3・K1/2・M1）。 ③予習（120分） NHK放送文化研究所『国民生活時間調査2020』 (https://www.nhk.or.jp/bunken/research/yoron/pdf/20210521_1.pdf) を通読しておくこと。 ④復習（120分）

	授業ノートを確認し、当該授業の学習内容について自分の言葉で概略を述べるとともに、日常生活例や発展研究例など自分なりの説明をノートにまとめる。 【担当教員: 西田 亮介】
11	①授業テーマ 観光ガバナンス ②授業概要 観光をめぐるガバナンスについて国内外の先行研究をレビューし、その動向や特徴、未来観光のあり方を考察する。また、効果的な観光ガバナンスの論点から持続可能な観光への政策や戦略について自分の言葉で分析を試みる（B1・E1・I1/3・K1/2・M1）。 ③予習（120分） 授業で学ぶシラバスの内容を読み、観光ガバナンスに関連した最近のニュースや新聞記事、論文などを読む。 ④復習（120分） 授業内容について復習するとともに、興味のある観光ガバナンスの事例について調べる。 【担当教員: 田 昌禾】
12	①授業テーマ 気候危機とビジネス ②授業概要 地球温暖化を背景にした「気候危機」について説明できる。SDGsをはじめ、企業の社会的責任について説明し、また「気候危機」に企業が備えるべき事項を提示できる。さらに、危機管理学部における「気候危機」に関する科目の関係を説明できる（B1・E1・I1/3・K1/2・M1）。 ③予習（120分） 地球温暖化と気候危機との関係について、事前に提示するキーワードに基づいて調査をする。 ④復習（120分） 気候危機に関係する業務について、業種を挙げて説明する。 【担当教員: 山添 謙】
13	①授業テーマ 企業と国境 ②授業概要 新型コロナ禍や露ウ戦争から明らかなように、企業のグローバルな営利活動は、否応なく国家の政治外交活動からの影響を受けることになる。本講義では、「グローバル化」という時代趨勢のなかで、たとえば「経済安全保障」や「デカップリング」といった言葉が、近年、頻繁に使用されるようになった状況をふまえ、これら基礎的概念の意義を説明しつつ、同時に現代社会における企業活動の現状を把握することにした（B1・E1・I1/3・K1/2・M1）。 ③予習（120分） 「グローバル化」という概念から想起される事案について、調べ、イメージを持っておくこと。 ④復習（120分） 講義内で配布した資料に基づき、企業と国家の関連性を「グローバル化」の視点から把握し直す。 【担当教員: 先崎 彰容】
14	①授業テーマ 企業における情報技術にまつわるリスクとそれらの管理 ②授業概要 企業ではどのように情報技術が活用されているのか、その位置付けを整理した上で、情報技術にまつわる企業のリスクを導出する。リスクをいくつかのカテゴリに分類し、企業がどのように対応しているか、いくつかのケーススタディを取り上げる。本授業によって、情報技術の視点から企業活動における危機管理を俯瞰する（B1・E1・I1/3・K1/2・M1）。 ③予習（120分） 企業がどのように情報技術を活用しているのか、具体的な情報サービスやシステムの目的、期待する効果、課題点、解決策について、2つケースを挙げる。 ④復習（120分） 企業が情報技術を活用して、成功したケース、失敗したケースを、各々2つ挙げる。 【担当教員: 美濃輪 正行】
15	①授業テーマ 「企業リスクガバナンス」のまとめ ②授業概要 本授業で取り上げた企業キャリアに関するトピックを振り返り、主専攻領域における

	学修計画について説明できる（B1・E1・I1/3・K1/2・M1）。 ③予習（120分） 授業のノートをもとに復習をする。4つの領域それぞれに領域に関連するキャリアの例を挙げる。 ④復習（120分） 2年次以降に履修予定の科目を挙げ、その理由を挙げる。 【担当教員：科目コーディネータ（上野山晃弘）】
関連科目	行政リスクガバナンス（RMGT1309S）
教科書	なし。
参考書・参考URL	「学部要覧」の各領域の履修モデルを参照。また、必要に応じて各回の授業内容に参考資料を記載しています。
連絡先・オフィスアワー	各授業回の担当教員のオフィスアワーやメールアドレスにて質問等を受け付けます。
研究比率	災害25%、パブリック25%、グローバル25%、情報25%

